



新しい時代の

群馬キャリアデザイン支援事業

生き方・働き方を考える

■日頃漠然と考えていた自分の将来を意識して考えてみることができました。

【40代女性、支援講座Ⅰ（基礎編）参加】

■具体的実践の基礎となる考え方を示していただきました。この一連の講座セットで、具体的活動もイメージでき、意欲や目標を持つことができました。

【40代男性、団塊シニア支援講座Ⅱ（地域活動実践編）参加】

■自分の子どもを含め最近の若者のおかれた状況、考え方、学校・家庭・地域社会の関わり方について体系的な話を聞くことができました。今後の家庭内教育、就職活動等に非常に有意義な内容であり、できる限り実生活に活かしていきたい。

【50代男性、支援講座Ⅲ（キャリア教育支援編）参加】

群馬キャリアデザイン支援講座受講者のアンケートより抜粋

新しい時代の生き方・働き方を考えるキャリアデザイン

新島学園短期大学キャリアデザイン学科 教授 山口 憲二

価値観の確立

1930年、イギリスの有名な経済学者ケインズは100年後の予言をテーマとした講演会で「(豊かな時代になって)生きるために働く必要がなくなるとき、人は人生の目的を真剣に考えなければならなくなる」と言っています。その予言が、日本で30年早く的中したと言っても間違いではなさそうですね。

一般に自由度が増えること、選択肢が多くなることというのは豊かさの表れです。ところが、選択肢が多すぎると、選択に困って何をしたいかわからなくなったり、選択した後も、もっといい選択があったのではないかと心配になって満足ができなくなったりするのです。それは携帯電話の機種を選ぶ場合でも、人生の進路を選ぶ場合でも同じです。それを逃れるには、自分なりの確固とした価値観を確立することが必要になります。

さて、バブル経済崩壊後の不況が長引く中、特に90年代後半から産業界ではいわゆるリストラ(事業再構築)による人員削減が、業界を問わず多くの企業で行われるようになりました。また、いくつもの大企業が経営破綻をして、世間を驚かせました。そのことで私たちは「自分のキャリアは自分の責任でつくらねばならない」、「大企業に入社しても安心できない」と気付かされました。そこで就職後も自費で学校に通って、職業能力開発に取り組む人も増えました。

これを自己責任が問われる厳しい時代になったと考えられることもできますが、自律的な生き方が可能な、努力し甲斐のある時代になったと捉えることもできます。学生時代の成績や学校名で就職先が決まり、会社人間として定年まで、たとえ不本意な仕事でも会社のために懸命に働くことが人生の“正解”ではなくなったわけです。

自分の価値観に忠実に、自律的・主体的な生き方、働き方ができる時代、つまり自由で、選択肢の多い豊かな時代になったといえるのではないのでしょうか。

ところが私たちの多くは、自分の価値観がしっかり確立していなかったり、他の会社でも通用する職業能力を身に付けていなかったりするものですから、今、時代の大きな変化に戸惑っているのです。ニートやフリーターといったことばに象徴されるような、若者のキャリア形成にとって重大な問題も発生しています。これは若者だけの問題ではなく、産業や社会全体の問題でもあるわけです。社会環境の変化と、現在の社会システムのギャップがそこに顕在化してしまったようです。私たちが取り組んでいるキャリア教育の重要性が叫ばれる所以です。

キャリアデザインとは

このような若者のキャリアに関わる問題は解決が急がれますが、その根本的な解決のヒントになるのが、キャリアデザインという視点だと思います。

キャリアは英語ではcareerで、その語源が「馬車(car)が通ったあとでできた“わだち”」ということから、日本語訳は経歴、職歴などとなります。ここではより広く、「生き方や働き方」と考えましょう。

デザインは英語のdesignで、印(sign)を付けて目立たせること、考えや思いを記号(sign)で表すということから、意匠や設計という日本語訳が当てられています。

英語ではcareer designとはあまり言わずに、career development(キャリア開発)やcareer management(キャリアマネジメント)がよく使われます。キャリアデザインの定義はさまざまですが、私は「生き方、働き方を意識化すること、自分でその方向や計画を定めること」としています。

したがってキャリアデザインは、それなしでは生きていくことができないといった深刻なものではありません。何も考えず、他律的な、あるいは流されるままの生き方、働き方という選択も依然として可能です。ニートやフリーターの方の中には、キャリアの選択をあまりに深く考えすぎて、就職という現実的な一歩を踏み出せないという人が少なくないようです。

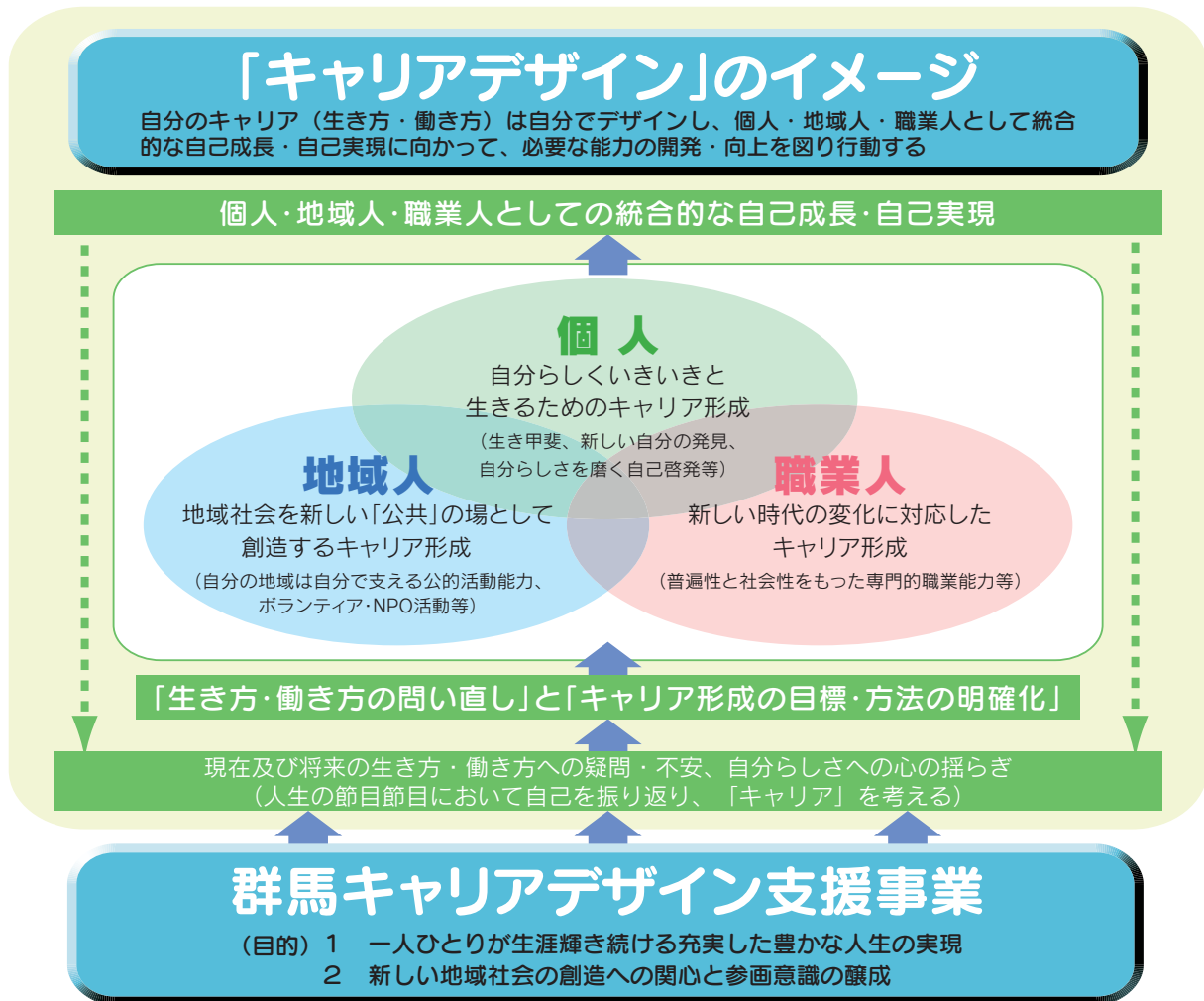
そうでない場合は、キャリアデザインという視点で人生を意識化することが、意識化しない場合より、ステキな人生を歩むことができる可能性が高くなると思います。意識化するということの意義は、「確かに私は自分でこの人生を生きているという実感」を得られるということです。

また、キャリアデザインは時間軸において、未来だけを見るものではありません。過去を振り返り、それに意味づけをするというキャリアデザインも必要です。特にシニア世代の方は、これまでの人生を振り返り、それに肯定的な意味を与え、自分の内的なキャリアの充実をされることをお勧めします。

そして、その経験をぜひ地域社会で活かしていただきたいと思います。ボランティア活動やコミュニティ・ビジネス、あるいは学校におけるキャリア教育の支援など、多くの選択肢があります。

ケインズの予言は、私たち一人一人が自分らしい解答を提示できる日、そのときが真に豊かな時代ということでしょうか。みんなの知恵を合わせれば、不可能ではないはずです。

群馬キャリアデザイン支援事業概念図



群馬キャリアデザイン支援事業の経緯

○14年度（1年次）：【基礎的な調査・研究】

- ・関連情報の収集、分析及び関連機関、団体等のヒアリング

○15年度（2年次）：【基本的な考え方やセンターの役割等の検討・協議】

- ・「群馬キャリアアップ支援事業検討懇談会」を設置し、キャリアに関する基本的な考え方を検討（「キャリアアップ支援」から「キャリアデザイン支援」へ名称変更）
- ・「キャリアアップシンポジウム～新しい時代の生き方・働き方を考える～」を開催（県労働政策課と共催）
- ・「生涯学習ぐんま第40号『特集・キャリアデザインの支援』」作成

○16年度（3年次）：【具体的事業推進に係る検討・協議及びモデル事業の実施】

- ・「群馬キャリアデザイン支援事業推進会議」を設置し、モデル事業「キャリアデザイン支援講座」等の内容及び方法の検討
- ・「団塊シニア支援事業検討委員会」を設置し、団塊シニアの文化、学習活動に関する調査研究及び今後の事業展開等を検討
- ・群馬キャリアデザイン支援講座Ⅰ（基礎編）及び支援講座Ⅱ（キャリア教育支援編）を開催
- ・「群馬キャリアデザイン支援事業報告書」及び「生涯学習ぐんま第41号『団塊シニアの支援』」作成

○17年度（4年次）：【学習プログラム・関係機関との連携方策の検討・協議及び各種支援講座の実施】

- ・「群馬キャリアデザイン支援事業推進会議」を設置し、事業推進上の各関係機関・団体との連携方策及びキャリアデザインの視点から、団塊世代を含む中高年の地域活動参加に関する学習プログラム等を検討
- ・支援講座Ⅰ（基礎編）、団塊シニア支援講座Ⅰ・Ⅱ（地域活動支援・実践編）、支援講座Ⅲ（キャリア教育支援編）を開催
- ・高崎経済大学地域政策学部櫻井研究室と連携して支援講座受講者のヒアリング調査を実施 等

平成17年度 群馬キャリアデザイン支援講座の概要

■キャリアデザイン支援講座Ⅰ(基礎編)：<個人としてのキャリアデザイン支援>

- 目的：キャリアデザインの考え方を理解し、自分のキャリア(生き方・働き方)は自分でデザインし、個人・地域人・職業人としての統合的な自己成長・自己実現に向かうための基礎的な能力の向上を図る。
- 内容<会場：利根沼田県民局、群馬県生涯学習センター>

	テーマ・学習内容	沼田会場<日程・定員・講師>	センター会場<日程・定員・講師>
1	【講演】新しい時代の生き方・働き方を考えるキャリアデザイン ・キャリアデザインの考え方、社会的背景と意義	6月18日(土) 14:00~16:00 : 80名 法政大学キャリアデザイン学部教授 桐村 晋次	7月9日(土) 14:00~16:00 : 100名 新島学園短期大学教授 山口 憲二
2	【事例発表】私の歩んだ道 ~自分自身で拓いた生き方・働き方~ ・地域人や職業人としてのキャリアデザイン事例	6月25日(土) 14:00~16:00 : 50名 里山クラブ主宰 川原 幸司 群馬電子計算センター 管理部マネージャー 女屋かほる	7月23日(土) 14:00~16:00 : 100名 海洋政策研究財団研究員 野満 健
3	【講義・実習】キャリアデザインの実際 ・「キャリアデザイン」の方法と手順 ・「キャリアデザイン」の実習	7月16日(土) 14:00~16:00 : 50名 ライトマネジメントコンサルタンツジャパン アソシエイト・ディレクター 小籠 和子	7月30日(土) 14:00~16:00 : 50名 高崎健康福祉大学短期大学部 専任講師 眞保 智子

■団塊シニア支援講座Ⅰ・Ⅱ(地域活動支援・実践編)

<団塊世代を含む中高年を中心とした方々の地域人としてのキャリアデザイン支援>

- 目的：キャリアデザインの視点から、まもなく新たなライフステージを迎える「団塊シニア」の方々と地域での諸活動に関心のある方々を対象として、新しい地域づくりに参画するための基本的な理解を図る。
- 内容<会場：群馬県生涯学習センター>

	地域活動支援編<日程・定員・テーマ・講師>	地域活動実践編<日程・定員・テーマ・講師>
1	11月12日(土) 14:00~16:00 : 80名 【講演】“会社のひと”から“社会のひと”へ ~団塊世代の新しい地域づくりへの期待~ 講師：大妻女子大学家政学部ライフデザイン学科助教授 富田 安彦	12月10日(土) 14:00~16:00 : 50名 【講演】住民の参画と協働による地域づくり ~新しい時代の住民自治へ向けて~ 講師：群馬自治総合研究センター 常任参与 稲葉 清毅
2	11月26日(土) 14:00~16:00 : 30名 【事例研究・討議】 新しい中高年世代の社会参加を促進する 公民館活動 講師：千葉県佐倉市立中央公民館長 荒井 誠 高崎市矢中公民館次長 金井 愛子 コーディネーター：高崎経済大学地域政策学部 地域づくり学科専任講師 櫻井 常矢	12月17日(土) 14:00~16:30 : 30名 【リレートーク・討議】地域で活かせるあなたのキャリア ~「キャリア」を活かして新しい地域づくりを~ 講師：NPO法人ぐんま未来の会理事 小林 馨 新島学園短期大学教授 山口 憲二 前橋市教育委員会生涯学習課長 菅野 肇 県NPO・ボランティア推進課次長 高藤 祐二 コーディネーター：群馬大学社会情報学部教授 森谷 健

■キャリアデザイン支援講座Ⅲ(キャリア教育支援編)：<若者のキャリアデザイン支援>

- 目的：キャリアデザインの視点から、キャリア教育の現状と課題及び地域、家庭、学校での支援方法等の基礎を学び、青少年の新しい時代の生き方・働き方について考える一契機とする。
- 内容<会場：群馬県生涯学習センター>

	<日程・定員・テーマ・講師>
1	1月21日(土) 14:00~16:00 : 50名 【講演】新しい時代の生き方・働き方を考えるキャリア教育 講師：法政大学キャリアデザイン学部助教授 児美川孝一郎
2	1月28日(土) 14:00~16:00 : 30名 【リレートーク】キャリア教育の現状と課題及び望ましい支援のあり方 ・NPO法人キャリア倶楽部理事長 太田 和雄 ・県経営者協会 インターンシップ担当コーディネーター 瀬下 尚 ・県立伊勢崎商業高等学校教諭 小松 祐一 コーディネーター：新島学園短期大学教授 山口 憲二



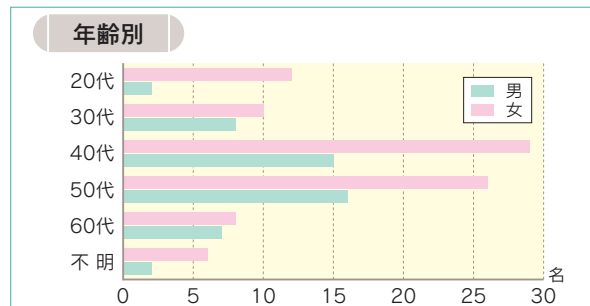
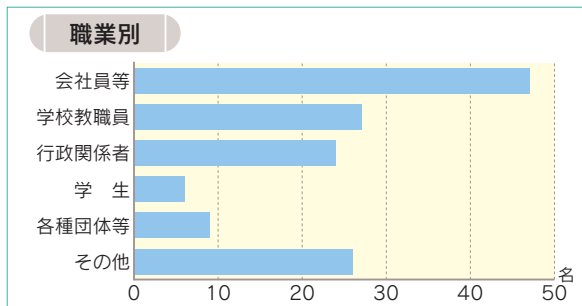
支援講座Ⅰ(基礎編)・センター会場

平成17年度群馬キャリアデザイン支援講座受講者の概要

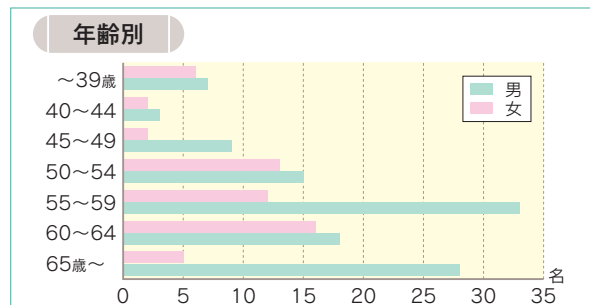
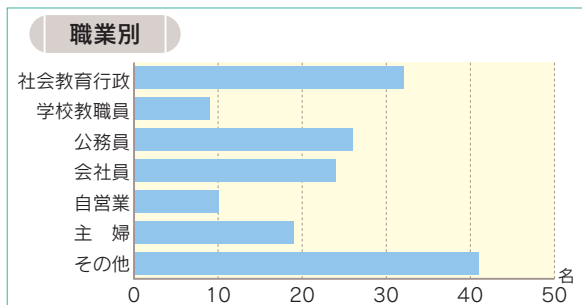
■申込者内訳

*グラフの数字はすべて人数

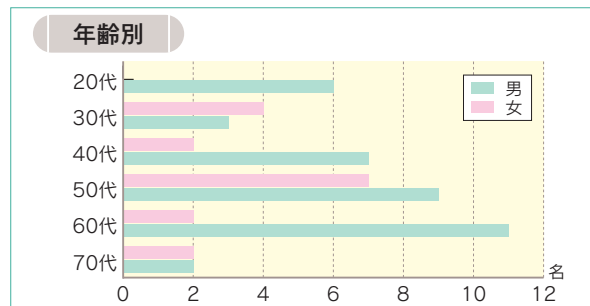
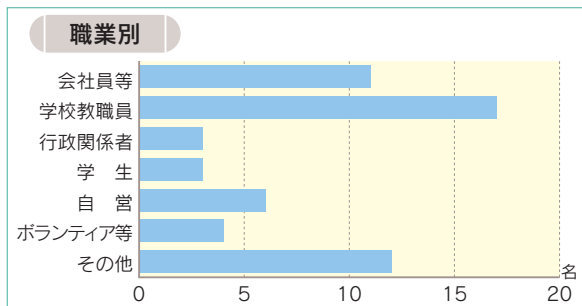
【キャリアデザイン支援講座Ⅰ（基礎編）＜沼田会場・センター会場＞】：申込者数 沼田会場→59名、センター会場→82名



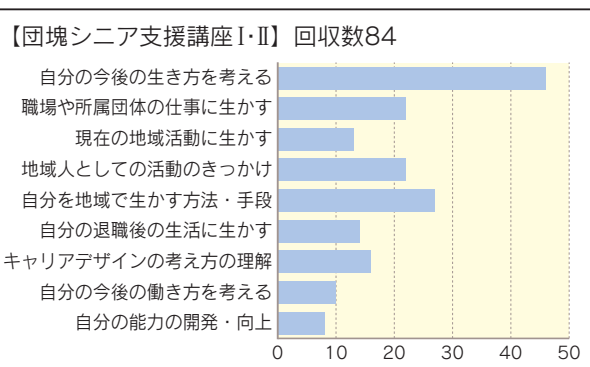
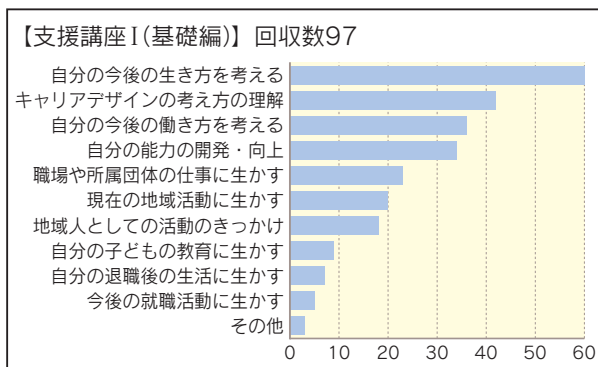
【団塊シニア支援講座Ⅰ・Ⅱ（地域活動支援編・実践編）】：申込者数 Ⅰ→94名、Ⅱ→74名



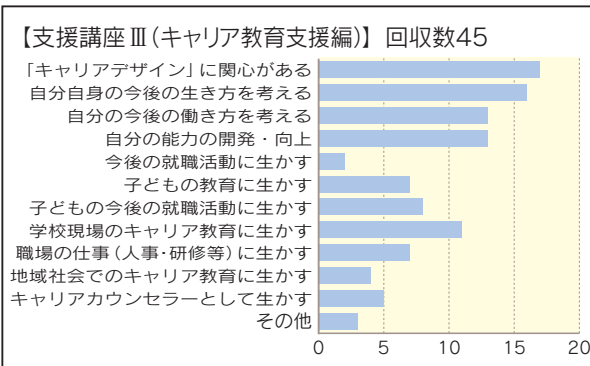
【キャリアデザイン支援講座Ⅲ（キャリア教育支援編）】：申込者数 56名



■『参加した動機は？』（アンケート結果より）



団塊シニア支援講座Ⅰ
(地域活動支援編)



支援講座Ⅲ(キャリア教育支援編)

受講者へのヒアリング調査の概要

■ねらい

本調査は、群馬キャリアデザイン支援講座の受講者を対象に、受講の動機やプログラムへの評価に加え、受講者自身の現在の仕事・地域活動経験、受講後の変容等を調査し、本支援事業における今後の新しい事業展開や学習支援プログラム開発の参考とするために実施した。

■方法

高崎経済大学地域政策学部櫻井常矢専任講師の指導のもと、同研究室所属の学生が、受講者12名を対象に直接ヒアリングの形式で実施した。調査期間は、平成18年1月～2月である。なお、本調査は、東京大学教授佐藤一子研究グループ(「成人継続教育におけるキャリア形成と地域支援システムの構築に関する総合的研究」)の助言のもとに実施したものである。

■ヒアリングの概要(抜粋)

*調査結果の下段は、ヒアリング担当の学生の所感

【Aさん／男性 50代 公務員】



30代で地元の地域活動に参加し、最後はリーダー的役割も経験した。勤務先は他の市町村であったが、ようやく地元の人たちに受け入れられたことを実感した。現在は、自然環境を守る活動のリーダーをしている。自分の家の周辺が清水の源泉であることなど、自然環境にも恵まれていることからこの活動に取り組み始めた。

若いときは、仕事の中で「これが自分の生き方」と感じることもあったが、職場が変わるにつれ、自分の仕事や生き方について「これでいいのか」と疑問を感じるようになった。また、10年後には退職を迎える時期にきて、人生を振り返ったり、家族と話し合ったりする中で、これからの自分の生き方をより強く意識するようになった。さらに地域での活動がマンネリ化してきていることにも疑問を持ち始めていたときに、この講座を受講し、自分の思いと身の回りで起こっている出来事とが一つにつながったように思えた。また、地域に生きる人間として、もっと自分にできることがあるのではないかと意識するようになった。退職後は、自然保護活動や職場で培ったことを活かして、寺子屋のような形で子どもたちのための地域活動がしたいと考えている。

Aさんは、個人、地域人、職業人のいずれをも貫く生き方をされていると感じた。5年後、10年後の自分を描くことに講座を通して気付いたAさんは、そのことを不安視するのではなく、とても楽しみにまたうれしそうに話していた。退職後のキャリアデザインは、別の新たな自分探しではなく、これまでの地域人、職業人として培ったものを土台にしたものであることを改めて感じた。

【Bさん／女性 40代 会社員】



結婚当初は、地域にあわせようと一生懸命だったが、PTAでの母親同士の交流を通して地域にとけ込めるようになり、自分にできることを通して地域にも目を向けるようになる。

子育ては大変だったが、その頃の自分は一番輝いていたように思う。子どもに‘親’にしてもらったと感じている。また、家族の理解があったことが、自分のこれまでを支え、講座への参加も後押ししてくれた。最近では、子育ても一段落がついて、「これからがスタートだ」という気持ちで自分の人生を考えるようになった。以前は周囲を気にしていたが、今は自分を信じて楽しくやっていきたい。そのことによって、人が集まってくるような地域の「点」になりたい。この講座では、様々な人々の生き方に触れ、自分を信じて何かを進めていく話を聞き、心を打たれた。自分も人を元気にさせる、そんな生き方をしたいと感じた。

Bさんは、人との出会いをとっても大切にしてくられたし、何かを学び、成長していきたいという強い思いが感じられた。これまでの自分をいきいきと楽しそうに話された姿が印象的だった。子育てにも区切りがついた今、「これからがスタート」と自分を信じて何かを進めていきたいという意欲を感じた。

【Cさん／40代 男性 教員】



学校は地域との信頼関係の上に成り立つと考えている。現勤務先は居住地ではないが、学校と地域とのつながりをつくるための活動を積極的に行っている。また、週に2回学級通信を出している。記録として残しておく、良い思い出も悪い思い出も過去を振り返ることによって、今後の自分につなげることができる。

この講座への参加の理由は、自分の視野を広げたいということ、そして何より今後の生徒の進路指導や接し方において参考になることを求めていることである。講師の「過去を振り返り、自分を見直すことで、今後の自分のやりたいことを見つける」という具体的手法が印象的だった。この手法は生徒に進路志望理由書などを書いてもらうときに大いに役立っている。退職後は、学校現場での経験を生かして、若者や地域と関わっていくことができるNPOを立ち上げてみたいとも考えている。

Cさんは教員生活の中で、職場環境や人間関係から仕事を辞めたいと思ったことがあるという。それでも続けられたのは、生徒を教え送り出していくことに喜びを感じる中で改めて学ぶことがあるからだという。生徒や地域との関係づくりを通して、やりがいや楽しみを見つけ実現しているCさんの考え方や生き方は魅力的だと思う。この講座を受けた動機が、教員という仕事のなかで役立つことを求めているという点も印象深かった。

【Dさん／40代 女性 看護師】



幼いころから就職も含め、母親が敷くレールの上で育ってきたと振り返っている。今は母子家庭だが、「こんな私でも必要としてくれる子どもたちがいる」という思いから積極的に子どもとかかわりを持ち、また仕事でも患者さんとの会話を大切にするようになった。以前の自分では考えられないが、多くの人と接する中で色々なことを学びたいと思う。もっと患者さんの立場に立てるようになるため、そして自分の生き方にも不安を持っていたため、「自分の人生を自分で描く」というキャリアデザインの意味に共感し講座に参加した。

現在は、講座で出会った‘地域人’という言葉を意識している。カウンセリング講座で出会った有志仲間と、突然の事故で親を亡くした子どもや心に傷を負った子どもたちのための活動を行いたいと考え、計画を進めている。地域活動など何か行動を起こすときは、補助金などの物的支援も必要だが、まずは共に頑張る仲間や同僚、上司、家族の理解が必要だと思っている。

Dさんは、様々な自分自身の課題に対して前向きになれた理由として、子どもや職場の仲間などの存在があったことを強調していた。その分、今後はカウンセリングや「傾聴」の知識を活かし地域の役に立つことに取り組みたいという。死を実感することの多い仕事だからこそ、「いま」を生きていることの意味を大切にしたいという言葉には、看護師としてのDさん、そして子どもたちとともに困難を乗り越えてきたDさんの姿が重なり合ってみえた。

■ヒアリング調査が意味すること ーまとめにかえてー

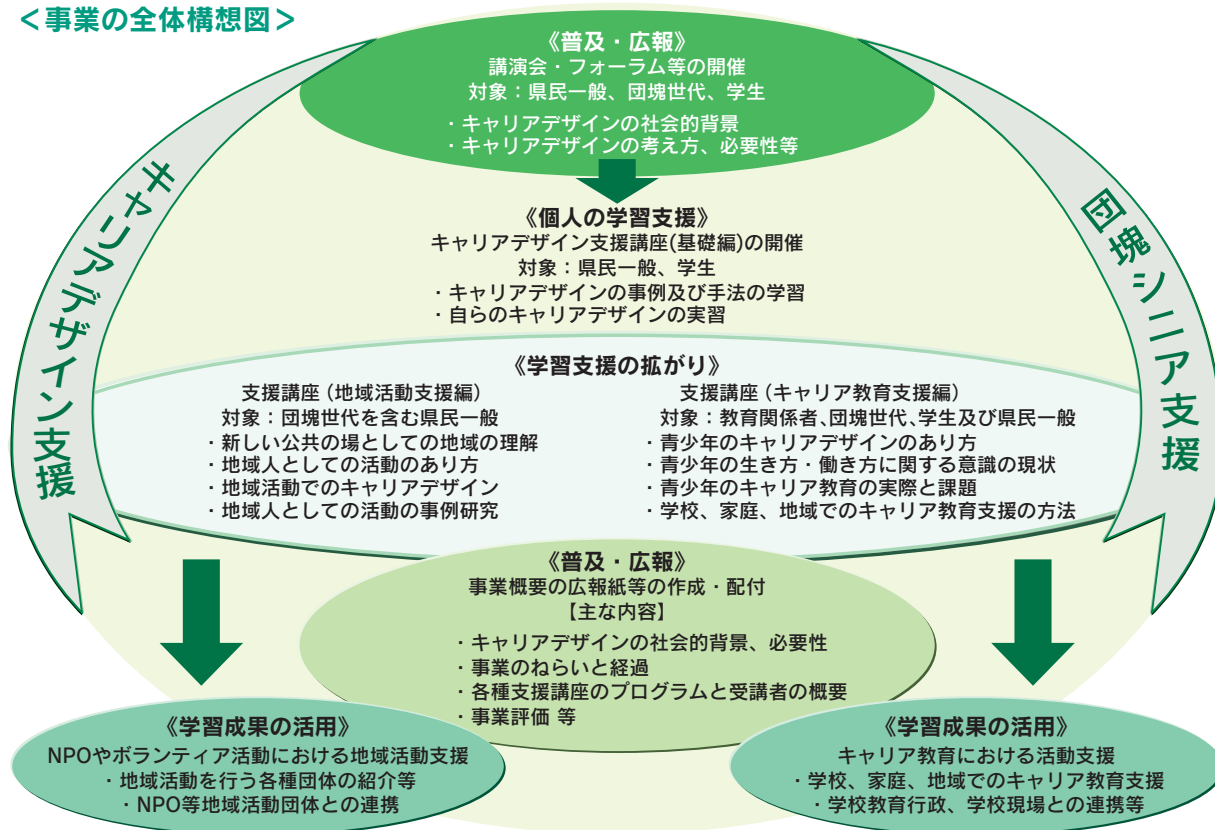
学生によるヒアリング調査とその結果から、次の3点が指摘できる。第1は、ヒアリングを通して自らの生き方への「気づき」が対象者の多くにみられたことである。実際のヒアリングでは、こうした自分史への気づきによる感激や涙する場面などが多々見受けられた。第2は、本講座が受講生の生き方や働き方に新たな「展開」を生み出していることである。受講前後の受講生の日常には、職場、地域における人間関係やその人の心理に何らかの変化が生じて、目的意識的な受講への動機づけがあることが分かる。本講座は、これを確かに受け止めつつ、むしろ新たな仕事や地域活動、人間関係づくりへと受講生を後押ししている。そして第3は、調査を担当した学生たち自身の生きることへの「学び」が見られたことである。ヒアリングという作業を通じた世代間の交流は、単なる一方向的なやりとりではなく、他者や人生の先輩の生き方から学生（若者）自身が学ぶ機会を含んでいるという意味において、相互教育的な生涯学習の価値を体現していると言える。この調査の成果が、本事業のさらなる展開はもとより、キャリアデザインに関する具体的なプログラム開発の一助となることを期待したい。最後に、本ヒアリング調査にご協力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。

今後のキャリアデザイン支援事業のあり方(提言)

今年度の群馬キャリアデザイン支援事業推進会議から、本事業のさらなる充実に向けて、生涯学習センターに対して、次のような提言をいただきました。

- 企業関係者や高等教育機関、NPO・ボランティア団体等との効果的な連携をとおして、本事業の普及広報を推進するとともに、公民館等における本事業の実施を支援する。
- 多様な個人のキャリアデザインを支援するため、魅力ある支援講座等の実施や県内外における関連事例・情報の収集・整理・発信を推進する。
- 学校・家庭・地域として、子どもたちや若者の「生き方・働き方」を支援するため、学校支援センターや若者就職支援センター等と連携し、学習成果の活用と結びつけた事業の推進を図る。
- 団塊世代を含む中高年の方々の主体的な地域活動を支援するため、事例の収集・発信とともに、地域活動等へのきっかけづくりを念頭においたセンター事業の推進に努める。

<事業の全体構想図>



<平成17年度主な連携機関・団体等>

- 【事業全般】高崎経済大学櫻井研究室、新島学園短期大学山口研究室、高崎健康福祉大学短期大学部眞保研究室
- 【団塊シニア支援関係】NPO法人ぐんま未来の会、NPO法人KFP友の会、(財)群馬県長寿社会づくり財団、前橋市教育委員会生涯学習課、高崎市矢中公民館、群馬県広報課、群馬県NPO・ボランティア推進課、群馬自治総合研究センター
- 【キャリア教育支援関係】NPO法人キャリア倶楽部、群馬県経営者協会、群馬県教育委員会義務教育課・高校教育課、群馬県立伊勢崎商業高等学校、群馬県立前橋東高等学校
- 【普及・広報関係】連合群馬、NPO法人DNA、群馬県若者就職支援センター(ジョブカフェ)、群馬県社会福祉協議会、前橋市市民活動支援センター、群馬大学キャリアサポート室、群馬県労働政策課

(参考) 平成17年度群馬キャリアデザイン支援事業推進会議委員 (○：座長)

(五十音順・敬称略)

- | | |
|--------------------------------------|-------------------------------|
| 大山 隆幸：県教育委員会生涯学習課補佐(企画情報GL) | 瀬下 尚：県経営者協会インターンシップ担当コーディネーター |
| 女屋かほる：県社会教育委員、群馬電子計算センター管理部マネージャー | 星野 孝：県教育委員会義務教育課指導主事 |
| 斎藤 祐二：県NPO・ボランティア推進課次長(NPO・ボランティアGL) | ○山口 憲二：新島学園短期大学キャリアデザイン学科教授 |
| 櫻井 常矢：高崎経済大学地域政策学部専任講師 | 横川 弘：県産業経済局労働政策課次長(政策企画GL) |
| 眞保 智子：高崎健康福祉大学短期大学部情報文化学科専任講師 | |